

令和2年12月9日

芦屋市企画部市民参画課
課長 川口 弥良 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

芦屋市公光分庁舎避難訓練報告書

- 1 開催日時：令和2年12月9日（水）10：00～10：30
- 2 担 当：二宮 毅行
- 3 参加者数：39名
(市民活動センター利用者：27名，地域経済振興課職員：7名，
リードあしや職員：5名)
- 4 内 容
 - (1) 目 的：消防法に基づいた避難訓練の年1回の実施を行い，火災時の対応が円滑にできるようにする。
 - (2) 内 容：公光分庁舎南館2階給湯室にて出火を想定した総合避難訓練（通報訓練・避難訓練・消火訓練）※別紙
 - ・南館にて出火確認、非常ベルが鳴動後に北館連絡により避難開始
 - ・職員による施設利用者の避難誘導
 - ・避難場所での水消火器を使つての消火訓練
 - ・消防本部隊員による訓練講評及び講話
- 5 振り返り（消防本部講評も含む）
 - (1) 初期消火訓練について
 - ・南館が仮想火元であったので、通報を受けて北館職員が消火器2本を南館消火班に届けた。
 - (2) 通報訓練について
 - ・南館から火災受信機と電話連絡により通報を受け、利用者への避難連絡が円滑に行うことができた。
 - (3) 避難誘導について
 - ・北館2階の4つの会議室に利用者27名がいたが、避難経路を屋内階段と屋外階段に分散確保し、それぞれに北館、南館職員を配置し誘導した。A室の利用者3名の中に足が不自由で階段避難が困難な方がいたが、火元と逆側になるD室東側ベランダに避難させた。（消防隊が到着後の救助を想定しての避難措置）
 - (4) 水消火器を使った消火訓練について
 - ・避難場所において消防本部隊員による消火器の扱い方の説明の後、実技を行った。多くの方が参加して使い方を学習することができた。

(5) その他

- ・消防本部隊員から訓練についての講評があったが、円滑な避難がなされたことへの良い評価があった。
- ・公光分庁舎南館から北館への非常通報がベルではなく電子音によるものであったことが確認できたが、印刷機の稼働時、電話の通話時、会話時には聞き逃す可能性があるのではないかと指摘が職員からあった。
- ・北館の職員配置は1階2人、2階2人としたが、オペレーションの工夫次第で、より円滑な避難ができると思われる、1階1人、2階3人の配置が取れることが分った。
- ・より実践的な避難訓練として、館内重要物（サーバー、金庫、重要書類等）の搬出や、近隣住民の協力を得ての身障者の避難救助等についての検討もしたい。
- ・火事を想定した訓練以外に地震など他の災害における避難訓練も検討してみたい。

訓練風景

